

再評価個表

事業名	水産流通基盤整備事業	事業主体	愛南町
施設・工区名等	ふなこしぎょこう 船越漁港	事業箇所	愛南町 船越
事業主旨	外郭施設や係留施設を整備することで漁業活動の利便性を図るとともに、漁港施設用地等の確保などを行い、漁獲物供給の安定や漁業従事者の労力を削減するなど、漁業環境の形成及び漁業活動の活性化を図る。		
再評価の実施理由	事業採択後 10 年が経過して継続中の補助事業		

1. 地域の概要

船越漁港は愛南町西海地区の中心漁港として代表的な漁業集落である、かつては全国有数のイワシ漁業地であったが、その後、真珠母貝・真珠養殖やブリ養殖等へと転換され、現在ではマダイ養殖などが中心となっている。

その水揚げ等で使用する養殖作業施設用地などが不足している現状であり、漁業活動に支障をきたしている。

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 14 年	完成予定	平成 25 年
用地着手	-	工事着手	平成 14 年
全体事業費	4,204 百万円(うち用地費： - 円)		
(1)事業概要	防波堤 L = 420m、突堤 L=45m、護岸 L = 145m、岸壁 L = 90m 物揚場 L = 190m、道路 L = 640m、船揚場 L = 50m、埋立 A=13,700m ²		
(2)事業経緯	平成 14 年度：広域漁港整備事業の承認 平成 17 年度：公有水面埋立免許取得		

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1)事業の必要性	<p>当地区は急峻な山地が水際線まで迫り出し、狭少な平坦地には高密度に集落が分布しているため、漁業における作業場所が狭く効率的な活動ができないことなどから、地元漁業関係者からも施設整備を強く求められており、安全で快適な漁業環境の形成と漁業活動の活性化を実現するために本事業を実施する必要がある。</p>
(2)事業の整備効果	<p>船越漁港整備により、漁業活動が改善され作業効率が増大、また、漁獲物供給の安定による品質向上により安全安心な生産を図る。</p>

(3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

南宇和郡町村合併（平成 16 年 10 月）や漁協の合併（平成 17 年 10 月）により「愛南漁業協同組合」が誕生した。

四国横断自動車道（西予宇和 IC～大洲北只 IC）が開通（平成 16 年 4 月）し、また、平成 24 年 4 月には宇和島道路の開通により松山方面へのアクセスが向上する見込みである。

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

(うち用地費)

H23 末投資事業費

(- 百万円) [進捗率: - %](事業費換算)

3,198 百万円 [進捗率: 76.1 %](事業費換算)

(1) 事業の進捗状況

本事業は安全で快適な漁業活動の活性化を図ることを目的として係留施設や施設用地等の整備を進めるものであるが、埋立土砂の確保及び投入に不測の日数を要するなど、また、予算縮減による事業費の確保が困難なことなどから、事業が長期化している。

(2) これまでの整備効果

平成 17 年度末に第 3 防波堤が整備されたことで、港内へのゴミの進入が防止され、処理等に係る経費や時間などの軽減が図られる。

(3) 今後の事業進捗の見込み

平成 23 年度に臨港道路部、係留施設等の供用を開始する、又 防波堤、突堤工事を推進し事業の早期完成を目指す。

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比

C：総費用 = 5,264 百万円

- ・ 事業費 5,254 百万円
- ・ 維持管理費 10 百万円

B：総便益 = 6,290 百万円（年間便益額の合計金額）

- ・ 水産物の生産性向上 265 百万円/年
- ・ 漁業就業環境の向上 43 百万円/年
- ・ 生活環境の向上 3 百万円/年
- ・ 非常時・緊急時の対処 5 百万円/年

$B / C = 6,290 / 5,264 = 1.19$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

埋立土砂に建設発生土を利用し、埋立費用のコスト縮減に努めた。

防波堤のケーソン中詰材に銅スラグを使用することとし、提体幅を小さくすることで建設費用のコスト縮減に努める。

7.その他

一本釣漁業や養殖漁業などが盛んな船越漁港内において、愛媛大学南予水産研究センターを設置し、養殖技術等の研究を行い第一次産業のさらなる活性化を目指している。

8.対応方針(素案)

本事業を『継続』としたい。